2022 年 7 月

「変化」

CHAN**G**E ⇔ CHAN**C**E

「“G”を“C”に変えるちょっとした勇気があれば、変わることができる」

原田マハ「本日は、お日柄もよく」125ｐ

3 年目のコロナ禍での夏、ロシアによるウクライナ侵攻・・・これから未来の歴史の教科書に必ず掲載されるような大きな社会の変化の中に、今私たちはいます。祖父母が戦争を語るのを聞いたように、将来、当事者として誰かに語ることがあるかもしれません。

自分の感じたことや思いを誰かに伝えるために話すことは、文章に書く事とはまた違う感じ方があります。文章で伝える言葉は、読む人の受け止め方によって変わることもあるかもしれませんが、声で伝える言葉は、声の強弱やゼスチャー周りの雰囲気などで、語る人の思いがよりダイレクトに伝わってくるように感じます。

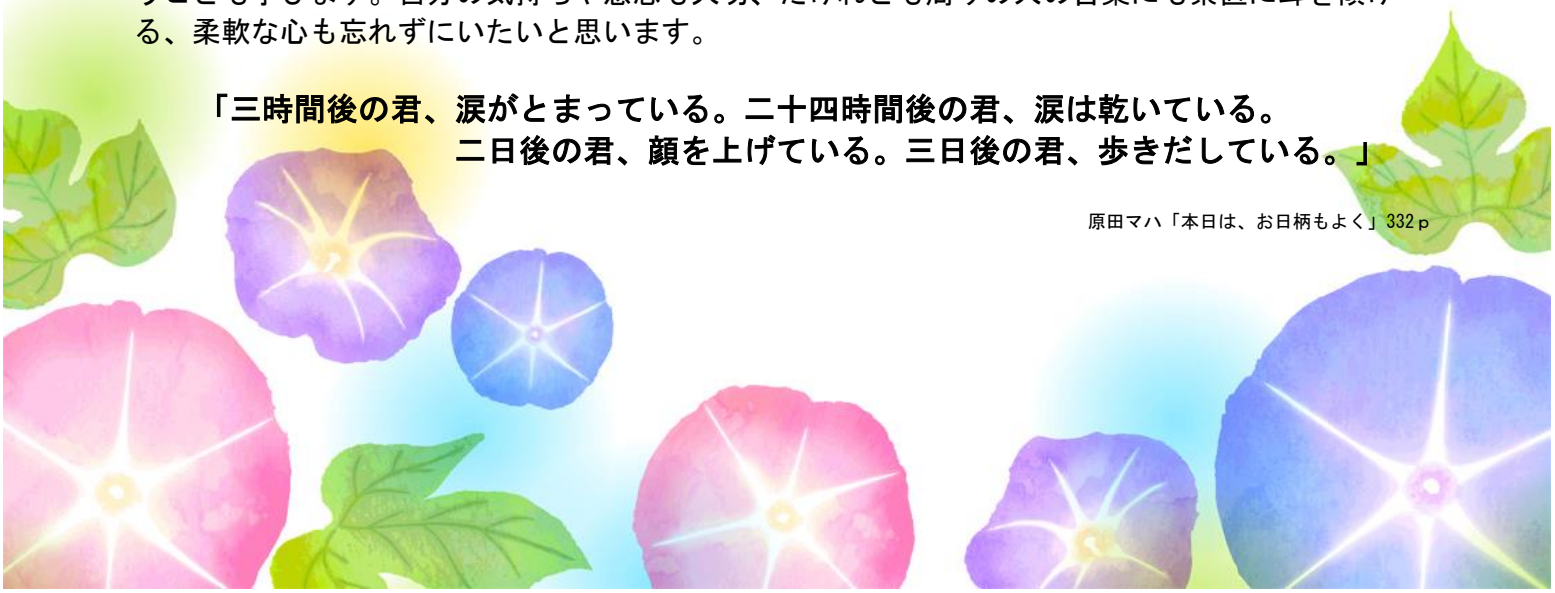
『本日は、お日柄もよく』　原田マハ

「言葉には力がある」と強く心に残るお仕事小説です。

主人公のこと葉は、幼なじみの厚志の結婚式で聞いた、あるスピーチに魅了されます。結婚式でよく使われる言葉で、タイトルにもなっている「本日は、お日柄もよく」という言葉ですが、そのスピーチでは、締めの言葉として聞く人の心に深い感慨を残しました。そのスピーチをした女性は、政治家だった厚志の父を支えたスピーチライター久遠久美で、こと葉は彼女に弟子入りしてスピーチライターを目指すことになります。

物語では、こと葉は父の後を受け付いて立候補した厚志を、スピーチライターとして支えてゆくことになるのですが、ある企業のプレゼンで最初に紹介した「ＣＨＡＮＧＥ」という言葉がでてきます。この小説が書かれた時代背景にアメリカ大統領選挙でオバマ氏が「ＣＨＮＧＥ」という言葉を呼びかけ、人々の心を掴みましたが、確かに変わることはチャンスにも繋がっているという前向きな気持ちにもさせてくれます。

受動的であっても、変わっていくことを受けとめ、考え方１つでチャンスにも変えられる・・・感じ方はそれぞれあるかもしれませんが、辛いとき、悲しいとき、力を与えてくれる数々の言葉を持っていて伝えられたら、他の誰かを励ましたり、勇気づけたりすることができるかもしれないと思えてきます。そして、言葉を話すことと同じくらいに大切なこととして、こと葉は「聞く」ということも学びます。自分の気持ちや意志も大切、だけれども周りの人の言葉にも素直に耳を傾ける、柔軟な心も忘れずにいたいと思います。

「三時間後の君、涙がとまっている。二十四時間後の君、涙は乾いている。
二日後の君、顔を上げている。三日後の君、歩きだしている。」

原田マハ「本日は、お日柄もよく」332ｐ